

2011年 2012年 2013年 2014年 2015年 2016年 2017年 2018年 2019年

陸 前 高 田 京

レクチャー

「2011年ー2014年
津波のあとの草はら」

2019年3月16日(土)
14:00-17:00

「2015年ー2018年
復興工事とまちの再開」

2019年3月17日(日)
14:00-17:00

講師 小森はるか(映像作家)
柳原夏美(画家・作家)

身体のワークショップ

「“記録”から“フィクション”
をはじめめる/声に出す」

2019年3月23日(土)
13:00-18:00

講師 杉浦保理(振付家・ダンサー)

さあ、
準備運動を
はじめましょう!

八年のこと、
東京に
重ねて、
読みなおす。

2020年
開催展覧会・プレ企画

陸前高田の記録を
読みなおす / 声に出す

REMEMBERING RIKUZENTAKATA / SAYING IT OUT-LOUD

会場:生活工房5階セミナールーム 公益財団法人せたがや文化財団 生活工房 東京都世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー

主催|公益財団法人せたがや文化財団 生活工房 後援|世田谷区/世田谷区教育委員会 宣伝美術|隣井研太 <http://www.setagaya-ldc.net/>

世田谷文化生活情報センター

生活工房

Lifestyle Design Center

陸前高田の記録を読みなおす/声に出す

2020年 開催展覧会・プレ企画

REMEMBERING RIKUZENTAKATA / SAYING IT OUT-LOUD

2011年東日本大震災、2020年に開催される東京オリンピック。
あの日から「震災後」と呼ばれた時間を過ごしていた私たちは、
いつの間にか「オリンピック前」を生きているようです。

祭典に向けて、今日も着々と東京のまちは剥がされ、塗り替えられています。

やばい、はやい、忘れちゃう でも行かなきゃ え、やっぱり進まなきゃいけない？

大きなうねりの渦中を生きる私たちには、あの日からの震災から確かに受け取ったはずの問いたちを、
祭りの後にまで持ち込むための跳躍が必要な気がするのです。

さあ、そのためにどんな準備運動をしておきましょう？

本企画は、震災後からオリンピック前の生活を見つめる展覧会(2020年春に開催予定)の
プレ企画として、2011年からの8年間を“東京で読みなおす”レクチャーとワークショップです。

講師に迎えるのは、震災後から岩手県陸前高田市の人々の声やその土地の風景を記録し、
作品制作を続けているアーティストの小森はるかさん、瀬尾夏美さん、そして
身体を通じて震災の記録を継承する試みを行っているダンサー砂連尾理さんです。

“震災後”と“オリンピック前”のはざまのときに、被災地の8年、東京の8年、
そしてあなた自身の8年の日々を重ね合わせて、じっくりとふりかえてみませんか。



小森 はるか+瀬尾 夏美
(こもり はるか+せお なつみ)

映像作家の小森と画家で作家の瀬尾によるアートユニット。2011年3月、ともに東北沿岸へボランティアに行ったことをきっかけにして活動開始。2012年より3年間、岩手県陸前高田市に暮らしながら制作に取り組む。2015年、東北各地で活動する仲間とともに、土地と協働しながら記録をつくる組織、一般社団法人NOOK(のおく)を設立し、仙台に拠点を移す。現在も陸前高田での制作と対話の場づくりを活動の軸にしながら、全国各地へ歩き巡回展を開催。



砂連尾 理
(じやれお おさむ)

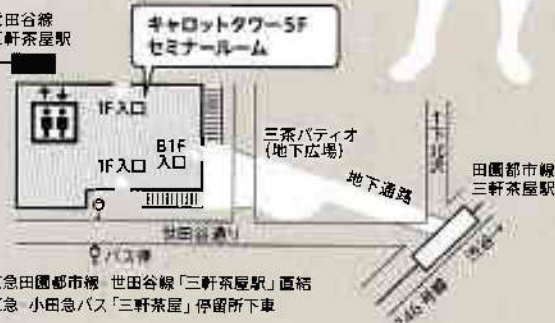
振付家・ダンサー。1991年、寺田みさことダンスユニットを結成。近年はソロ活動を中心に、ドイツの障がい者劇団テイクバとの「Thikwa+Junkan Project」、京都舞踊の高齢者との「とつとつダンス」などを発表。また高城 剛上(ゆりあげ)の避難所生活者への取材が契機となった「猿とモルターレ」では瀬尾夏美、小森はるか等と協働する。著書に「老人ホームで生まれたくつとつダンス」-ダンスのような 介護のような- (品文社)。立教大学 現代心理学部 映像身体学科 特任教授

世田谷文化生活情報センター

生活工房

Lifestyle Design Center

お問い合わせ
公益財団法人せたがや文化財団 生活工房
〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4-1-1
キャロットタワー TEL 03-5432-1543
<http://www.setagaya-ldc.net/>



レクチャー

Lecture

3月16日(土) 「2011年-2014年 津波のあとの草はら」

時間 14:00-17:00

3月17日(日) 「2015年-2018年 復興工事とまちの再開」

時間 14:00-17:00

東日本大震災の大津波で、大きな被害を受けた岩手県陸前高田市。そこでまちの震災後の風景と人々のことを記録し続けるアーティストが、震災直後の4年間と、復興工事が始まってからの4年間に分けて、被災地における風景や人の変化を、写真や映像とともにお話しします。

講師 小森はるか(映像作家) / 瀬尾夏美(画家・作家)

会場 生活工房5階セミナールーム 参加費 各回500円

▶ 申込:1月25日10:00より受付開始。
電話かメール(希望日とイベント名、氏名、年齢、電話番号を明記)で生活工房まで

📞 03-5432-1543 / 受付時間は10:00~21:00

📧 件名を「陸前高田レクチャー」として info@setagaya-ldc.net まで

定員
各40名
(申込先着)

身体のワークショップ

Workshop

3月23日(土) 「“記録”から“フィクション”をはじめめる/声に出す」

時間 13:00-18:00

震災後、避難所生活をする人びととの交流からパフォーマンス作品を制作しているダンサーとともに、震災の記録資料を身体で読みなおす/声に出すワークショップ。他者の体験や言葉を受け取り、自分を通して声に出し、体を動かしながら、新たな身体表現を試みます。経験は一切問いません。

講師 砂連尾理(振付家・ダンサー) 対象 中学生以上

会場 生活工房5階セミナールーム 参加費 1,000円

▶ 申込:しめきりは3月4日(必着)。メールか往復はがき
(イベント名、氏名、年齢、電話番号を明記)で生活工房まで

📞 154-0004 世田谷区太子堂4-1-1キャロットタワー5F
生活工房「陸前高田ワークショップ」係

📧 件名を「陸前高田ワークショップ」として info@setagaya-ldc.net まで

定員
15名
(申込)